

地域において「健康な生活」を実現できる仕組み

I 個人の健康増進を実現する環境の整備

健康増進を社会的な課題として捉え、その重要性を理解し、各個人が具体的な行動に移しやすい、そしてその行動を続けやすい環境を整える必要があります。

Challenge 01 生活習慣改善プロジェクト(ヘルスケア推進事業)への民間資金・ノウハウの活用

Challenge 02 健康経営に取り組む企業の増加

Challenge 03 ESD活動の一環としての健康教育の推進

Challenge 04 医療資源の適正利用に向けた取組推進

II 一体的ケア関係者の役割分担の共有と積極的な動き ～地域の医療関係者で支援する体制の構築など～

市民一人ひとりの状態を悪化させないよう、医師、薬剤師、看護師などの地域の医療関係者がチームとなって支援する体制を構築します。

Challenge 05 医療関係者のネットワークの深化を図る

Challenge 06 認知症施策の推進

Challenge 07 フレイル対策の推進

Challenge 08 女性の活躍推進のための健康支援の推進(女性特有の疾病への対応の充実)

Challenge 09 子どもから働き盛り世代まで、健康無関心層の生活習慣改善対策の推進

Challenge 10 病状に応じた医療を受けられるよう、医療機関間の連携体制を構築

III 医療関係者の地域における活動の推進

病気や課題を抱えた方が、身体的・精神的に良好な状況になり、また経済的・福祉的な課題が縮小していき、生きがいを感じて暮らしていけることが良好な質の生活(健康な生活)につながります。この考えを土台として、就労やボランティアなどで社会と繋がる場等をつくり、また様々な課題について広く相談できる体制などの環境を整備します。

Challenge 11 まちの保健室や薬局の通いの場の増加

Challenge 12 医療関係者を交えた相談の場の増加

Challenge 13 高齢者や障害者、課題(がん、難病、認知症等)を抱えた人の就労支援・社会参加の推進

Challenge 14 病気につながる様々な課題について相談でき、支援に結びつける体制整備

イノベーションとテクノロジーの活用

先進技術への理解を深めるとともに、人材を含め、先進技術を活用した保健・医療サービスを提供できる体制を構築する必要があります。

Challenge 15 医療イノベーションの推進

Challenge 16 病院間の連携による臨床研究の推進

Challenge 17 感染症対策の推進

Challenge 18 保健医療人材の育成と働き方改革の推進

Challenge 19 AIを活用したビッグデータ分析の推進

アウトカム(エビデンス)重視

医療・介護関係者だけでなく市民もエビデンスのある対策の必要性を理解し、その重要性を認識できる環境を整備します。具体的には以下の3点が必要です。

- ①必要なデータを適切に取ることが出来る環境を作ること
- ②取り組みについて適切に評価できる仕組みを構築すること
- ③成果を理解し、次につなげる環境があること

Challenge 20 健康診断の受診の促進

Challenge 21 データに則った保健指導の実施

Challenge 22 糖尿病等のハイリスク対策の実施

Challenge 23 状態改善・社会参加を前提とする介護サービスの推進

Challenge 24 需要予測・市民ニーズに則った医療・介護資源の在り方(サービス内容、供給量)の検討

Challenge 25 医療・介護サービスの質の評価の検討

G20岡山保健大臣会合支援推進協議会とは

G20岡山保健大臣会合が2019年10月に開催されるにあたり、開催支援の取り組みや歓迎機運の醸成等を推進することを目的に、行政機関、経済団体、観光・国際・文化団体、大学、マスコミ、市民団体、保健・医療関係団体の合計37の団体で設立した組織です。

発行月:2019年11月

発行者:G20岡山保健大臣会合支援推進協議会

(事務局:岡山市政策局G20保健大臣会合推進室)

住 所:岡山市北区大供一丁目1番1号

電 話:086-803-1000



実現のための25のChallenge

岡山の保健医療の目指すべき姿「Positive Health Okayama」を宣言します

Positive Health Okayama とは

子どもからお年寄りまで、病気や障害などの有無に関わらず生きがいを持ち活躍できる社会をみんなで目指すこと

実現のために必要な2つのこと

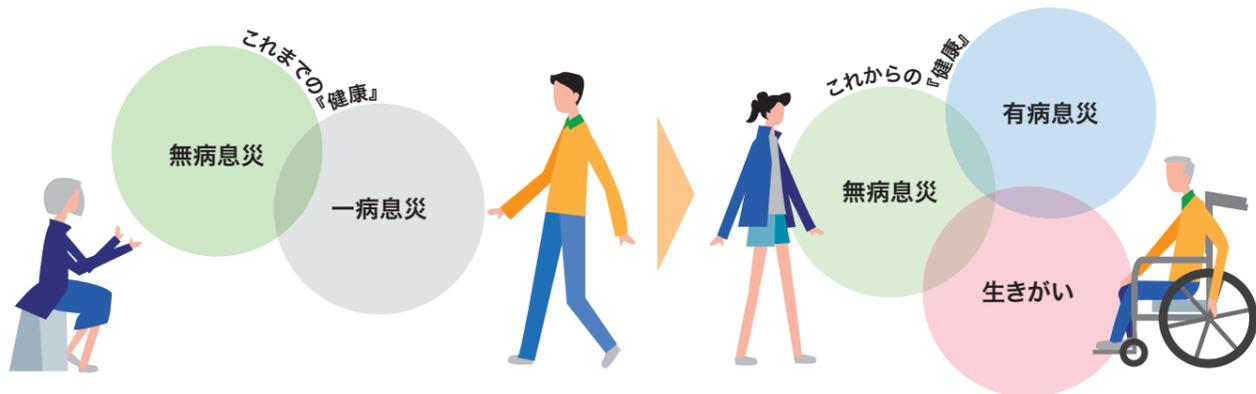
1 「健康」の捉え方のイノベーション

病気がないことや、身体が丈夫なことだけが『健康』でしょうか？

私たちは、2030年の岡山の目指すべき保健医療の将来像を共に描き、その将来像に向かってどう行動していくべきか議論しました。

その中で、病気がない事だけでなく、病気や身体的な課題を抱えていたとしても、それぞれが「生きがい」を持ち「よりよく生きる」ことを目指すべきではないか。それが私たちの考える新たな『健康』ではないか、という結論に至りました。

この新たな「健康」の捉え方を地域みんなの共通認識とし、実現に向けて取り組むことが望まれます。



2 地域において「健康な生活」を実現できる仕組み 一体的ケア

人口が減り、高齢化がますます進み、このままでは人手が足りない上に、医療・介護の負担は大きくなる。このように社会環境が変化する中で、市民が、身体的、精神的な健康に加えて、社会とのつながりや自立なども含めた生活の質を追求し、保健医療・地域経済を持続可能なものにするためには、「一体的ケア」が必要だと考えました。

「一体的ケア」とは健康な生活の実現を個人の努力のみに任せるのではなく、社会全体の課題として捉え、職場(企業)や地域、教育関係者、保健医療関係者、行政機関など、様々な領域・関係者が互いに関わり合い、連携しながら、子どもからお年寄りまで、個人の健康な生活の実現をサポートすることで、「無意識のうちに健康な生活を送ることができるまち」となるよう一体的に取り組んでいくことです。

「一体的ケア」とは

新たな健康観を土台として、市民一人ひとりの「健康な生活」の実現を、保健医療関係者や行政、ヘルスボランティアだけでなく、産・官・学・金・言がそれぞれの立場から様々な形で関わり合い、サポートする仕組みです。



私たちが目指す2030年の姿

